

平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社銀座山形屋
 コード番号 8215 URL <http://www.ginyama.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 山形 政弘
 (氏名) 渡辺 光潤

TEL 03-6680-8711

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	1,983	2.4	△109	—	△45	—	△54	—
25年3月期第2四半期	1,937	6.1	△182	—	△125	—	△133	—

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 △35百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △82百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	△3.15	—
25年3月期第2四半期	△7.75	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	3,900	—	2,477	—	63.5	—	143.49	—
25年3月期	4,180	—	2,512	—	60.1	—	145.53	—

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 2,477百万円 25年3月期 2,512百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,401	2.1	14	—	56	107.4	40	566.7	2.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	18,044,715 株	25年3月期	18,044,715 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	781,834 株	25年3月期	780,166 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	17,263,469 株	25年3月期2Q	17,265,137 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビューは終了していません。
なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済対策や金融政策への期待感から、円高の是正や株価の上昇が進み、企業収益や一部高額品の個人消費に改善が見られました。しかしながら、輸入資材・原油等の価格上昇や欧米諸国における財政問題、国内における個人所得の伸び悩みや雇用不安などから、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

このような状況下において当社グループは「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉に「品質の改善・向上」・「100%のリピートオーダーを目指す」を目標にグループ企業一体となり収益改善に努めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の実績といたしましては、売上高は小売事業及び受託縫製事業の受注が順調に推移したことから1,983百万円(前年同四半期比2.4%増)となり、利益面は売上高の増加に伴う売上総利益の増加等と販売費及び一般管理費の削減等に努めたことにより営業損失は109百万円(前年同四半期は182百万円の営業損失)となりました。また経常損失は、受取配当金及び貸倒引当金戻入益があったこと等により45百万円(前年同四半期は125百万円の経常損失)となりました。四半期純損失は減損損失の計上3百万円等があり54百万円(前年同四半期は133百万円の四半期純損失)となり前期に引き続き改善傾向となりました。

セグメント別では、小売事業が売上高830百万円(前年同四半期比5.6%増)、セグメント損失46百万円(前年同四半期は127百万円のセグメント損失)、卸売事業が売上高753百万円(前年同四半期比1.7%減)、セグメント利益1百万円(前年同四半期は36百万円のセグメント損失)、受託縫製事業が売上高391百万円(前年同四半期比6.3%増)、セグメント損失43百万円(前年同四半期は53百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ274百万円減少し、3,900百万円となりました。これは主に季節要因により受取手形及び売掛金が109百万円減少したこと及び、前連結会計年度末日が銀行休業日にあたっており、本来前期中に決済される買掛金及び未払金144百万円が、当連結会計期間にずれ込んだことによりそれに伴う現預金が減少したことによるものであります。

負債につきましては前連結会計年度末に比べ244百万円減少し1,423百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金と同様に季節要因により買掛金が205百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ35百万円減少し2,477百万円となりました。これは、その他有価証券評価差額金の増加19百万円があった一方で四半期純損失54百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、概ね順調に推移しており、平成25年5月14日に発表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度（第69期）において営業キャッシュ・フロー、経常利益の黒字化は達成しておりますが、第69期までの5期連続の営業損失の計上により、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。そのため、営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的な黒字化が最優先の課題であると認識し、当該事象を改善又は解消すべく以下の対策を実施してまいります。

当社グループは「安定した利益とキャッシュ・フロー」を出せる経営基盤の確立の方針のもと、銀座山形屋の服づくりのこだわり「MADE IN JAPAN」・「着心地と品質」を第一としたオーダーメイドを柱に、「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉に「品質の改善・向上」・「100%のリピートオーダーを目指す」を目標にグループ企業一体となり収益力向上を図ってまいります。

- ① 一人一人の販売の力をレベルアップし「満足されたお客様は2度目もご愛用いただける100%のリピートオーダーを目指す」を目標に再客（リピーター）をものさしとし、品質・品揃え・価格・接客・知識すべての分野において、テーラー銀座山形屋のプロとして「商売の原点は“お客様”にある」を大切にすべく行く集団をつくりあげてまいります。
- ② ブランドにおいてはそれぞれの志向の異なるお客様に向けて、更なる魅力的なブランドとして認知していただくために、「銀座山形屋ブランド」は、銀座流の良質な大人の装いをテーマに、安心できる納得の品質でお客様に満足感を提案してまいります。お洒落に拘りを持ったお客様への「サルトリア プロメッサブランド」は、35歳をメインターゲットにイタリアの洋服文化を感じていただきながら、「あなたを包む価値ある一着」のコンセプトのもと、スーツを軸にファッション提案してまいります。女性のためのベーシックデザインを基本とした「ミスターナブランド」は、30歳から40歳を中心に、自分の体型にあった拘りの1着をファッションとともに、お客様にお届けすることにより満足感を提案しパターンオーダーメイドシステムを更に強化し、他社とは一味違う着心地感とファッション性を追求してまいります。
- ③ 製造事業会社に、28歳をメインターゲットにしたオーダースーツの入門編としての「ブレフ」ブランドを移管し、従来からのインターネットによるオーダースーツ販売ブランド「スーツファクトリー d p i」とともに、ネットそして若い人達向けブランドとして販売強化してまいります。
- ④ 製造部門におきましては、T S S手法の活用で「ムダ・ムリ・ムラ」のない製造工程を作りあげ、安定した品質向上の出来る生産体制による魅力ある商品をつくりあげてまいります。
- ⑤ 固定費削減による収益力向上をはかるため、一つ一つの費用を見直し経費削減への取り組みを速やかに実施してまいります。

上記を中心とした施策を「ぶれることなく」継続しつづけて行くこと、磨きつづけること、により営業利益および営業キャッシュ・フローの継続的な黒字化に努めてまいります。資金に関しましては、当第2四半期末時点での現金及び預金と投資有価証券の合計額は19億1千9百万円であり借入金や手形発行もなく財務面に支障はなく、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	746,860	689,484
受取手形及び売掛金	496,094	375,896
商品及び製品	141,095	148,689
仕掛品	16,370	19,210
原材料	108,923	116,094
その他	60,073	55,717
貸倒引当金	△2,805	△1,729
流動資産合計	1,566,612	1,403,362
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	101,736	98,725
その他(純額)	271,104	280,838
有形固定資産合計	372,840	379,563
無形固定資産		
その他	5,042	4,636
無形固定資産合計	5,042	4,636
投資その他の資産		
投資有価証券	1,227,546	1,230,230
敷金及び保証金	775,648	770,317
その他	271,244	126,734
貸倒引当金	△38,112	△14,430
投資その他の資産合計	2,236,326	2,112,850
固定資産合計	2,614,210	2,497,051
資産合計	4,180,822	3,900,413
負債の部		
流動負債		
買掛金	235,197	125,859
未払法人税等	18,580	8,799
ポイント引当金	31,411	31,030
その他	386,288	274,141
流動負債合計	671,478	439,830
固定負債		
退職給付引当金	590,492	591,990
役員退職慰労引当金	87,914	90,154
資産除去債務	195,326	195,406
その他	123,129	105,937
固定負債合計	996,863	983,489
負債合計	1,668,342	1,423,320

㈱銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	242,303	—
利益剰余金	△473,553	△285,668
自己株式	△79,348	△79,476
株主資本合計	2,416,962	2,362,415
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	95,518	114,678
その他の包括利益累計額合計	95,518	114,678
純資産合計	2,512,480	2,477,093
負債純資産合計	4,180,822	3,900,413

株銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	1,937,410	1,983,028
売上原価	951,283	954,203
売上総利益	986,127	1,028,825
販売費及び一般管理費	1,168,469	1,138,536
営業損失(△)	△182,341	△109,711
営業外収益		
受取利息	1,185	802
受取配当金	28,315	22,331
受取手数料	5,671	6,334
貸倒引当金戻入額	17,647	23,529
雑収入	4,914	11,281
営業外収益合計	57,733	64,279
営業外費用		
支払利息	238	168
雑損失	413	102
営業外費用合計	651	271
経常損失(△)	△125,259	△45,703
特別利益		
投資有価証券売却益	7,670	—
特別利益合計	7,670	—
特別損失		
投資有価証券売却損	9,585	—
減損損失	—	3,049
特別損失合計	9,585	3,049
税金等調整前四半期純損失(△)	△127,175	△48,752
法人税、住民税及び事業税	6,595	5,692
法人税等調整額	△36	△27
法人税等合計	6,559	5,665
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△133,734	△54,418
四半期純損失(△)	△133,734	△54,418

株銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△133,734	△54,418
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,366	19,159
その他の包括利益合計	51,366	19,159
四半期包括利益	△82,367	△35,258
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△82,367	△35,258
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

株銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△127,175	△48,752
減価償却費	23,110	24,263
減損損失	—	3,049
投資有価証券売却損益(△は益)	1,915	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△18,657	△24,757
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,976	2,240
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△8,835	1,497
受取利息及び受取配当金	△29,500	△23,134
支払利息	238	168
売上債権の増減額(△は増加)	148,685	120,350
たな卸資産の増減額(△は増加)	10,777	△17,604
仕入債務の増減額(△は減少)	△63,288	△109,338
未払金の増減額(△は減少)	△39,722	△95,701
その他	△22,118	△14,185
小計	△122,594	△181,904
利息及び配当金の受取額	29,500	23,134
利息の支払額	△238	△168
法人税等の支払額	△13,310	△14,893
営業活動によるキャッシュ・フロー	△106,642	△173,832
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△14,010	△37,187
有形固定資産の売却による収入	—	4,346
投資有価証券の取得による支出	△549	△461
投資有価証券の売却による収入	89,331	—
敷金及び保証金の回収による収入	8,547	11,197
敷金及び保証金の差入による支出	—	△2,335
貸付金の回収による収入	17,647	47,108
その他	△2,811	△1,901
投資活動によるキャッシュ・フロー	98,154	20,767
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△44	△128
リース債務の返済による支出	△3,522	△4,182
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,566	△4,311
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△12,054	△157,376
現金及び現金同等物の期首残高	620,848	746,860
現金及び現金同等物の四半期末残高	608,794	589,484

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

平成25年5月13日開催の取締役会において、平成25年6月26日開催の第69期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について、以下の内容について付議することを決議し、同株主総会にて承認可決されております。なお、本件は、「純資産の部」の勘定内の振替であり、当社グループの純資産合計に変動はありません。

(1) 資本準備金の額の減少及び剰余金処分の目的

繰越利益剰余金の欠損の填補を行うことを目的として、資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を行おうとするものであります。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額	
資本準備金	242,303千円
増加する剰余金の額	
その他資本剰余金	242,303千円

(3) 剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額	
その他資本剰余金	242,303千円
増加する剰余金の額	
繰越利益剰余金	242,303千円

上記の結果、第1四半期連結会計期間において資本剰余金が242,303千円減少し、利益剰余金が242,303千円増加しております。その結果、当第2四半期連結会計期間末においては利益剰余金が△285,668千円となっております。

株銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	786,180	767,258	368,152	1,921,590
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	831,498	831,498
計	786,180	767,258	1,199,650	2,753,089
セグメント損失(△)	△127,571	△36,598	△53,362	△217,533

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△217,533
セグメント間取引消去	2,854
棚卸資産の調整額	136
その他の調整額	△6,968
全社収益(注1.)	186,620
全社費用(注2.)	△147,451
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△182,341

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

㈱銀座山形屋(8215)平成26年3月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製事業	
売上高				
外部顧客への売上高	830,574	753,982	391,266	1,975,823
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	772,827	772,827
計	830,574	753,982	1,164,093	2,748,650
セグメント利益又は損失(△)	△46,919	1,618	△43,136	△88,437

(注) 表示方法の変更

従来、「その他」の区分に持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を記載していましたが、不動産賃貸収入の減少をうけて見直したことにより、「その他」から差異調整に関する事項の全社項目として開示することがより適切であると判断したため、前第3四半期連結会計期間より表示方法を変更しております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の「その他」のセグメント利益39,168千円を差異調整に関する事項の全社収益186,620千円及び全社費用147,451千円に組替えております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	△88,437
棚卸資産の調整額	2,198
その他の調整額	△4,954
全社収益(注1.)	129,590
全社費用(注2.)	△148,108
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△109,711

(注1.) 全社収益は、主に当社におけるグループ会社からの経営指導料、不動産賃貸収入等であります。

(注2.) 全社費用は、主に当社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、オーダーメイド販売及びブランド力の強化を目的とした会社組織の変更に伴い、報告セグメントを従来の「小売事業」から「地方パーソナル販売」を「卸売事業」へ、「ブレフ販売」を「受託縫製事業」へそれぞれ移管しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、会社組織変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。